

<主要施策名>

○豊かな人間力を高める人づくりの推進

平成27年度実施 事務事業評価表 担当課・係・内線：生涯学習・スポーツ課 生涯学習係 内線 8-231

P l a n (計 画)	主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進			
	施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進			
	施策目標	青少年の健全育成のための効率的かつ効果的な施策を推進するとともに、家庭、地域、学校及び行政が連携し、青少年の社会参画することができる、良好な地域コミュニティづくりに資する。			
	施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進			
	施策の目的	青少年の健全育成に向け、青少年育成砺波市民会議などの関係団体や地域推進員等と連携し、非行防止活動を推進する。 また、青少年の健全な育成と社会活動活性化の牽引者となるリーダー養成に努める。			
H26最終予算額		315	千円	H26決算額	224 千円
				H27当初予算額	315 千円

平成26年度事務事業の実施状況

D o (実施)	事業名	青少年対策事業（青少年健全育成啓発事業等）		
	予算科目	2. 1. 12. 1		
	実施状況	青少年育成地域推進員活動謝礼 青少年育成砺波市民会議運営補助	150千円 65千円	(30人×5000円/年) 事務費 9千円

平成26年度事務事業の評価及び分析

C h e c k (評 価)	事業名	青少年対策事業（青少年健全育成啓発事業等）			
	必要性・妥当性	3	点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。	
	優先性	3	点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）	
	効率性	3	点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）	
	経済性	3	点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。	
	総合評価	4項目合計点数	12	点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	本事業は、砺波市青少年育成地域推進員（委嘱、任期2年）の自主的な活動により支えられている。また、砺波市PTA連絡協議会などと協力して青少年健全育成大会を開催し、地域との連携を図っている。このほか、イオンモールとなみやカシオプレイスデンパル時にポケットディンシェを配り、啓発活動を行った。			

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

A c t i o n (改 善)	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H27）	10月3日の庄川小学校における「地球のステージ」や、11月29日の砺波市青少年健全育成大会では、砺波市PTA連絡協議会、砺波市人権擁護委員連絡協議会と協力するとともに、砺波市公民館研究会大会と合同開催を予定している。

Action (改善)	来年度 (H28)	本事業について、市民の関心が薄れないよう、通年で効果的な活動となるよう常任委員会において、効果的な取組について検討が必要である。
	中長期的 (3~5年)	本事業は、地道な活動のため、スポットを浴びることが少なく、また類似活動が多いことから、事業がマンネリ化しない工夫が必要と考える。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	砺波市青少年育成地域推進員は、各地区からの推薦のほか、各種団体からも参画を得ており、団体については、独自の活動をそれぞれ計画し実施しているため、事業調整等が必要となる。

■所属長評価

施策としての 総合評価	☒	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等ほぼ到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

所属長評価 の理由	☐ 重点化（コストを集中的に投入する）	☐ 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
	☐ 効率化（費用対効果の改善を行う）	☐ 簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
	☐ 統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☒ 現行どおり
A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあわし難い必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。		
今日の青少年を取り巻く環境下では、新たな活動とともに、継続性が必要であり、重要な事業と考えている。		

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由	
前年度評価	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価	
今年度評価の理由	

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	
-------------	--

平成27年度実施 事務事業評価表 担当課・係・内線：生涯学習・スポーツ課 生涯学習係 内線：6-231

P l a n (計画)	主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進			
	施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進			
	施策目標	青少年や女性の社会参画を促し、家庭・地域・学校及び行政が連携して、良好な地域コミュニティづくりに資する。			
	施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進			
	施策の目的	青少年の健全な育成と社会活動の活性化の牽引者となるリーダー養成に努める。			
	H26最終予算額	2,326	千円	H26決算額	2,109 千円
	H27当初予算額	2,006	千円		

平成26年度事務事業の実施状況

D o (実施)	事業名	青少年女性育成事業			
	予算科目	10.5.1.3			
	実施状況	青年リーダー研修事業 201千円 合併10周年記念事業委託 200千円 女性リーダー養成事業 447千円 各種団体活動補助 1,066千円 チューリップフェア写生大会及び写生画展 195千円			

平成26年度事務事業の評価及び分析

C h e c k (評価)	事業名	青少年女性育成事業			
	必要性・妥当性	3	点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが必要な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが必要な事業であるが、一部に見直しの必要がある。(見直しを求める意見等がある。) 1点：市民ニーズはあるが、市以外(他の公共団体・法人・個人)で実施することが可能である。	
	優先性	2	点	3点：今、実施することが求められている。(優先度が高い・不可欠) 2点：できるだけ早く実施することが求められている。(優先度がある程度高い・継続が望ましい) 1点：実施時期を遅延することが可能である。(他事業に比して優先度がそれほど高くない。)	
	効率性	3	点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。(見直しを求める意見等がある。)	
	経済性	3	点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し(事業の一部又は全部(廃止を含む。))が可能である。	
	総合評価	4項目合計点数	11	点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	青年・女性団体の活動支援を行ったことにより、となみ元気道場及び女性団体は、地域コミュニティづくりへの参画を促進した。			

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案(なるべく数値目標を用いて記載してください)

A c t i o n (改善)	前年度二次評価結果及び理由	【改善】 各種団体補助金について、継続して事業実績、活動内容を精査し、恒常的な補助のあり方の排除を徹底すること。 女性団体の活動は多様化している状況も踏まえた対応が必要になっている。 一方、女性議会については一定期間の実施により、手法の評価を求めること。			
	前年度二次評価に対する改善策	各種団体補助金については、継続して適正化に努める。 女性団体の活動については、ニーズとシーズを調整しながら引き続き支援していく。 女性議会については、意向調査を実施するなど、女性団体連絡協議会と開催等について検討していく。			
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	各種団体補助金については、継続して適正化に努めている。 女性団体の活動については、連携を図りながら活動支援に努めている。 女性議会については、意向調査を実施し当面2年に1度の開催とする。			
	今年度(H27)	女性の婦人会離れや連合会からの脱退の歯止め対策等について、連合婦人会などと引き続き協議していく。 女性議会について、今年度は開催せず、各団体と情報交換や来年度に向けて学習会を行い、市への意見、要望等を検討する。			

Action (改善)	来年度 (H28)	女性団体への継続的な支援に努める。 女性議会を開催し、市政に関する関心を深めるとともに、市政へ提言し女性の声を市政に反映させる。 青年層が参加意識を持てる事業の発掘に努める。
	中長期的 (3~5年)	女性団体に加入することの圧迫感をなくするため、団体等の運営の方法や市としての対応策を検討する必要がある。 また、青年層が地域活動へ参加し、リーダー的な役割を担うことができる将来の担い手を育成する。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	個人生活の優先度合は年代ごとに考え方にギャップがあり、統一した施策で対応するのは難しい。 若者や女性層の中でもそれぞれの考え方が異なり、行政においては先進地に学ぶなどモデルとなるイメージ作りや一層の工夫が必要となる。

■所属長評価

施策としての 総合評価	☐	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☒	B評価	目標とした指標等ほぼ到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

	☐ 重点化（コストを集中的に投入する）	☐ 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
	☐ 効率化（費用対効果の改善を行う）	☒ 簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
	☐ 統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☐ 現行どおり
所属長評価 の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあわし難い必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。	
	各種団体補助金については、引き続き活動規模・内容に応じた補助金額の精査が必要である。	

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由	平成26年度で「改善」又は「廃止・休止」と判断された事務事業	
前年度評価	改善	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価	改善	
今年度評価 の理由	各種団体補助金について、継続して事業実績、活動内容を精査し、恒常的な補助のあり方の排除を徹底すること。 女性団体活動の支援は、多様化している一方、衰退している状況も踏まえた対応が必要になっている。 また、各種団体への補助金については、継続して適正を図ること。	

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価 に対する 改善策	各種団体補助金については、継続して適正化に努める。 女性団体の活動については、ニーズとシーズを見極めながら引き続き支援していく。
---------------------	---

平成27年度実施 事務事業評価表 担当課・係・内線： こども課 児童家庭係 内線 371

Plan
(計画)

主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進										
施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進										
施策目標	健全な青少年の育成の場を確保できるよう支援に努めるもの。										
施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進										
施策の目的	児童クラブや子どもたちが参加する地域の行事を開催する場所として活用できるように管理運営費を補助するもの。										
H26最終予算額		350	千円	H26決算額		350	千円	H27当初予算額		350	千円

平成26年度事務事業の実施状況

D o (実施)	事業名	野外児童センター管理運営事業		
	予算科目	3.2.1.5		
	実施状況	野外児童センター管理運営補助金 (350千円)		

平成26年度事務事業の評価及び分析

平成26年度事務事業の計画及び分析

C h e c k (評 価)	事業名	野外児童センター管理運営事業				
	必要性・妥当性	3	点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。		
	優先性	3	点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）		
	効率性	2	点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）		
	経済性	3	点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。		
	総合評価	4項目合計点数	11	点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下	
		A				
	評価の理由等	子どもたちの健全な活動のために活用できる施設として必要である。				

事務事業の前年度、今年度、来年度以降の改善・改革結果又は案(なるべく数値目標を用いて記載してください)

A c t i o n (改 善)	前年度二次評価結果及び理由	維持					
	前年度二次評価に対する改善策	特になし。					
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	継続して予算を確保し、PRに努める					
	今年度(H27)	継続して予算を確保し、PRに努める					

Action (改善)	来年度 (H28)	継続して予算を確保し、PRに努める
	中長期的 (3~5年)	施設の老朽化に伴い維持管理費がかさむことが予想されるため、補助金の増額も検討課題と思われる。 (建設年度 昭和57年5月)
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	強風などによる大きな被害があった場合は、緊急な予算(補正)対応が求められる場合が考えられる。 社会福祉協議会との協議が必要である。

■所属長評価

施策としての総合評価	☒	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等ほぼ到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部(廃止を含む。)に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐ 重点化(コストを集中的に投入する)	☐ 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える)
☐ 効率化(費用対効果の改善を行う)	☐ 簡素化(事業の規模や内容を縮小する)
☐ 統廃合(他の事業と統合する、又は廃止する)	☒ 現行どおり
所属長評価の理由	A~C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあわし難い必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 障害児のハイキングでの拠点・休憩施設としても利用されている。 冬季の小学校スキー教室の拠点としてよく機能しており、安定した利用人数となっている。 秋のコスモスウォッチングにも大勢の利用がある。 夢の平の活用がより図られれば、さらに利用が増えると思込まれる。

■二次評価 (ワーキンググループにて記載)

選定理由	
前年度評価	維持
今年度評価	維持: これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善: 実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化: 事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大: 対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小: 対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合: 目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止: 廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価の理由	

■二次評価に対する改善策 (所管課にて記載)

二次評価に対する改善策	
-------------	--

平成27年度実施 事務事業評価表

担当課・係・内線： 教育総務課

学務係

内線154

Plan (計画)	主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進			
	施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進			
	施策目標	成長期にある中学生が社会性、規範意識等を身につけ、豊かな心や忍耐する態度を育むことを目標とする。			
	施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進			
	施策の目的	専門的な指導力を持つ指導者を中学校へ派遣し、活動内容の充実と強化を図る。			
	H26最終予算額	2,800	千円	H26決算額	2,628 千円
				H27当初予算額	2,974 千円

平成26年度事務事業の実施状況

D o (実施)	事業名	部活動推進事業		
	予算科目	10.3.2.6		
	実施状況	指導者謝金 保険料		

平成26年度事務事業の評価及び分析

Check (評価)	事業名	部活動推進事業			
	必要性・妥当性	3	点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。	
	優先性	3	点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）	
	効率性	3	点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）	
	経済性	3	点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。	
	総合評価	4項目合計点数	12	点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
		A			
	評価の理由等	専門的な技術指導力を有する指導者を、中学校に派遣し、教職員の指導力不足を解消するとともに、より充実した部活動を実現している。			

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action (改善)	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H27）	これまで定額72,000円（年額）としていたものを、平成24年度から実績に応じて（上限付き）謝金を支払うこととし、財政負担の削減に努めている。 本年度も同様の対応により実施していくもの。

Action (改善)	来年度 (H28)	謝金の支払対象としている回数を引き上げ、派遣回数に応じた謝金を支払えるよう検討する。これにより、スポーツエキスパートのモチベーションを上げる。 より多くの部の生徒が充実した部活動が送れるように、派遣する指導者の増員を検討する。
	中長期的 (3～5年)	実績に応じて謝金を支払うとともに、謝金の支払上限金額の引き上げを検討する。また、派遣する指導者の増員を検討し、さらなる部活動強化を図る。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	謝金支払の上限回数の引き上げは、謝金支払額の増加を意味する。それを、派遣実績に応じて謝金を支払う方式を採用することで、財政負担を最小限に抑える。 適正な予算の執行を行う。

■所属長評価

施策としての 総合評価	☒	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐	重点化（コストを集中的に投入する）	☐	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
☐	効率化（費用対効果の改善を行う）	☐	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
☐	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☒	現行どおり
所属長評価 の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらかし難いが必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。		
	各種協議協会の協力を得て、中学校部活動への指導者派遣を円滑に行い、教職員と共に指導の充実に努めた。		

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価	維持	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価 の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価 に対する 改善策	
---------------------	--

P
l
a
n
(計
画)

主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進									
施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進									
施策目標	成長期にある中学生が社会性、規範意識等を身につけ、豊かな心や忍耐する態度を育むことを目標とする。									
施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進									
施策の目的	学校、家庭、地域が連携して、中学生に社会性、規範意識、忍耐性を中心に自己を見つめ、自己改革に挑戦し、活力ある健康な青少年を育成する。									
H26最終予算額	1,877	千円	H26決算額	1,330	千円	H27当初予算額	1,869	千円		

平成26年度事務事業の実施状況

D o (実 施)	事業名	14歳の挑戦事業					
	予算科目	10.3.2.7					
	実施状況	指導者謝金 保険料 活動写真展					

平成26年度事務事業の評価及び分析

平成29年度事務事業の計画策定分析

C h e c k (評 価)	事業名	14歳の挑戦事業			
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。		
	優先性	3 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）		
	効率性	3 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）		
	経済性	2 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。		
	総合評価	4項目合計点数	11 点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下	
		A			
評価の理由等	学校、家庭、地域が連携して、中学生に規範意識や社会性を身につけさせ、何事にも挑戦する機会を与えている。				

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

A c t i o n (改 善)	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H27）	受入れ先の事業所数や職種の増加を図る。

Action (改善)	来年度 (H28)	事業の趣旨を理解していただくことで、受入れ先の事業所の増加を図る。また、限られた予算の中で生徒たちに充実した活動を提供できるように、財政負担の軽減を目的に、理解を得られた事業所には、積極的に謝金の辞退にも協力してもらう。
	中長期的 (3~5年)	これまで、引き受けてもらっていなかったジャンル of 事業所にも積極的に受入れを依頼し、時代の変化にも対応していく。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	受入れ先の事業所にも負担がかからないように十分に配慮し、長期的に継続して受け入れてもらえるように努める。また、長期にわたり継続されてきた事業であることから、適宜、時代の変化に対応した事務改善を行い、事業のさらなる充実・発展に努める。

■所属長評価

施策としての総合評価	☒	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等ほぼ到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐	重点化（コストを集中的に投入する）	☐	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
☐	効率化（費用対効果の改善を行う）	☐	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
☐	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☒	現行どおり
所属長評価 の理由		A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらいわし難いが必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。	
		生徒の社会性や規範意識の向上等に成果が上がっている。	

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由	
前年度評価	—
今年度評価	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価の理由	

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	
-------------	--

平成27年度実施 事務事業評価表 担当課・係・内線：生涯学習・スポーツ課 生涯学習係 内線：8-231

Plan
(計画)

主要施策名	豊かな人間力を高める人づくりの推進							
施策区分	活力ある健康な青少年の育成の推進							
施策目標	子どもを安心して生み育てる環境を整え、地域の方々に子ども教室のアドバイザーとして活躍していただくことで、地域とつながりをもった遊びや学習の場を提供する。							
施策名	家庭・地域・学校・行政が連携する教育の推進							
施策の目的	少子化や核家族化の進行、就労形態の多様化、家庭や地域の子育て機能、教育力の低下など、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、放課後等に子どもが安心して活動できる場を確保するとともに、次世代を担う児童の健全育成を支援する。							
H26最終予算額	5,800	千円	H26決算額	3,301	千円	H27当初予算額	3,797	千円

平成26年度事務事業の実施状況

Do (実施)	事業名	放課後子ども教室推進事業			
	予算科目	10.5.1.4			
	実施状況	放課後子どもプラン運営委員会 43千円 放課後子ども教室開設委託 2,658千円 (8教室) 土曜学習推進事業開設委託 600千円 (2教室)			

平成26年度事務事業の評価及び分析

Check (評価)	事業名	放課後子ども教室推進事業			
	必要性・妥当性	3	点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。(見直しを求める意見等がある。) 1点：市民ニーズはあるが、市以外(他の公共団体・法人・個人)で実施することが可能である。	
	優先性	3	点	3点：今、実施することが求められている。(優先度が高い・不可欠) 2点：できるだけ早く実施することが求められている。(優先度がある程度高い・継続が望ましい) 1点：実施時期を延期することが可能である。(他事業に比して優先度がそれほど高くない。)	
	効率性	2	点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。(見直しを求める意見等がある。)	
	経済性	3	点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し(事業の一部又は全部(廃止を含む。))が可能である。	
	総合評価	4項目合計点数	11	点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	A			
	評価の理由等	放課後子ども教室は、国1/3、県1/3、市1/3の補助事業であるが、委託している地区公民館は事務等が煩雑であり、運営を継続していくことが困難である。 放課後の子どもたちの居場所作りや地域との交流として有効であり、子育ての施策として重要である。 土曜日の教育支援体制等の構築を図る「土曜学習推進事業」を実施した。			

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案(なるべく数値目標を用いて記載してください)

Action (改善)	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度(H27)	年々受託団体が減少し、教室が無い地区も多い。子どもが集団で遊び、学び、地域で活動する機会が失われつつあるものの、子どもを預けたいとの要望があることから、引き続き教室が維持できるよう助言・指導していきたい。また、土曜教室との連携を図っていきたい。

Action (改善)	来年度 (H28)	本事業を継続する。教室が維持できるよう、助言・指導していきたい。
	中長期的 (3～5年)	放課後児童クラブと連携を図り、校下単位での運営を行う。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	事業者は、委託金の受取りから、企画やボランティアの調整、コーディネーター、指導員の確保など多岐にわたる事務となっている。このため、コーディネーター等を育てることが事業継続に必要なこととなる。 また、校下単位での運営は、地区がまたがることから地区公民館の運営は課題が多い。

■所属長評価

施策としての総合評価	☒	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等ほぼ到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐ 重点化（コストを集中的に投入する） ☐ 効率化（費用対効果の改善を行う） ☐ 統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☐ 手段の改善（実施主体や実施の手段を代える） ☐ 簡素化（事業の規模や内容を縮小する） ☒ 現行どおり
	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあわし難い必要がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 国・県の補助に応じて、事業を実施しており現行制度がある限り実施することとしている。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由	
前年度評価	維持
今年度評価	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価の理由	

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	
-------------	--

